

# 令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

教育部半田市立博物館新美南吉記念館

教育部長 岩橋 平武

整理No	事務事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
31-005	企画展事業(新美南吉記念館)	なし	C	<p>春季企画展「原口侑千ごんのかわら版四コマ漫画展」では、漫画というこれまでにない柔らかいテーマにより南吉ファンだけではなく幅広い層の関心を集めることができた。秋季企画展「児童雑誌『カシコイ小学生』に集った作家と新美南吉」では、学生時代の南吉が多くの幼年童話を発表しながらほとんど知られてこなかった学年誌『カシコイ小学生』について、県下初公開の貴重な原画も展示しながら詳しく紹介することができた。ただし、コロナ感染拡大を受けた4・5月の臨時休館により春季企画展が後ろにずれたこと、東京での調査・資料借用ができなかったため、夏期に予定していた東京オリンピック開催記念特別展「南吉のTOKYO 1932-1936」が中止となった。</p>	改善 推進	<p>新美南吉の魅力発信という核心を貫きながらも、時宜的な話題を捉え、南吉及びその文学の魅力を毎年の企画展・特別展の内容に反映することで、来館者が何度も足を運びたい記念館となるよう、今後も充実を図る。令和3年度は、コロナ禍を受けて愛知県のアーティスト緊急支援事業として漫画化された南吉の短編小説「花を埋める」の漫画原画展、感染症が南吉に与えた影響を通してコロナ禍のいま南吉文学から何を読み取れるかを問う特別展、自由に旅行ができない今、南吉が訪れた観光地の当時の様子を日記や作品と共に紹介することで旅行気分を味わってもらう企画展など、コロナ禍のいまだからこそそのテーマ設定で南吉に魅力を発信する。</p>
31-001	新美南吉記念館一般事務	なし	C	<p>令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4・5月を臨時休館したことや、イベント等の中止により年間入館者数が大幅に減少した。また、各種講座・教室・朗読会等も多くが中止となった。しかし、新美南吉に興味をもってもらう「きっかけ」として、また、南吉愛好家に更に理解を深めてもらえるように、SNSを充実させた。展示ガイドボランティアと読書会については、感染拡大防止のため活動を休止した。</p>	改善 推進	<p>南吉に関する講座、朗読会、生誕祭・貝殻忌行事などを継続して行っていく。各種事業を充実させるため、地域、地元企業、有識者、ボランティアと連携を強化し、常に新しい魅力の発掘、発信に努め、市民の来館者数の増加を重点目標とする。</p>
31-003	新美南吉童話賞事業	なし	A	<p>コロナ下において童話創作はステイホームで取り組めるものであるからか、令和元年度に比べ応募数が400編増加した。また、日本国内のみならず海外からも応募があり全国区の児童文学創作コンクールとしての地位確立に向け、前進した。課題であった第一次審査員については、読み聞かせグループ会員や当館学芸員が審査に加わることで必要人数を確保することができた。ただし、コロナ禍における夏休み短縮の影響で、市内小中学生の応募が減少した。</p>	改善 推進	<p>多くの人の目に留まり、応募したいという意欲を高めるため、ホームページの内容を工夫する。また応募者のニーズを分析することにより、効果的なPRの方法を考え、実践していく。オマージュ部門の浸透を図り、南吉作品の普及と顕彰に繋げる。今後も第一次審査員の確保に向け、持続的な審査体制の確立に努める。</p>
課等長	1次評価(令和2年度の総括評価)					
B	<p>コロナウイルスによる2か月の休館と団体客制限などにより、入館者数は前年度の45%に減少した。生誕祭・貝殻忌のイベントや特別展も中止になった。しかし、SNSを活用してリアルイベントに替わる企画、情報発信に力を入れたこと、特別展以外の企画展の内容を充実させたことなどにより、コロナによるマイナス影響を補うことができた。施設面では、生家駐車場用地の購入方針が土地対策会議で認められ、今後の道筋をつけることができた。一方で、間もなく建築30年迎えるため老朽化した天窓、水道・電気設備の更新など施設面の問題が山積しており、長期的な修繕計画の立案と予算要求が課題である。</p>					
部等長	2次評価(令和2年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項)					
B	<p>新美南吉童話賞の応募数が大幅に増加したように、コロナ禍の今こそ文学の価値を再認識してもらえる機会である。童話賞、企画展、各種行事を感染対策の制約のなかSNSを活用するなど工夫して成果を上げることができた。今後は特別委員会でも提言された市民が生涯を通して南吉文学に親しむ環境づくりに向け、他課とも連携し、その実現に中心的役割を果たしていくこと。また、その観点を持って生誕110年事業に取り組むこと。</p>					